

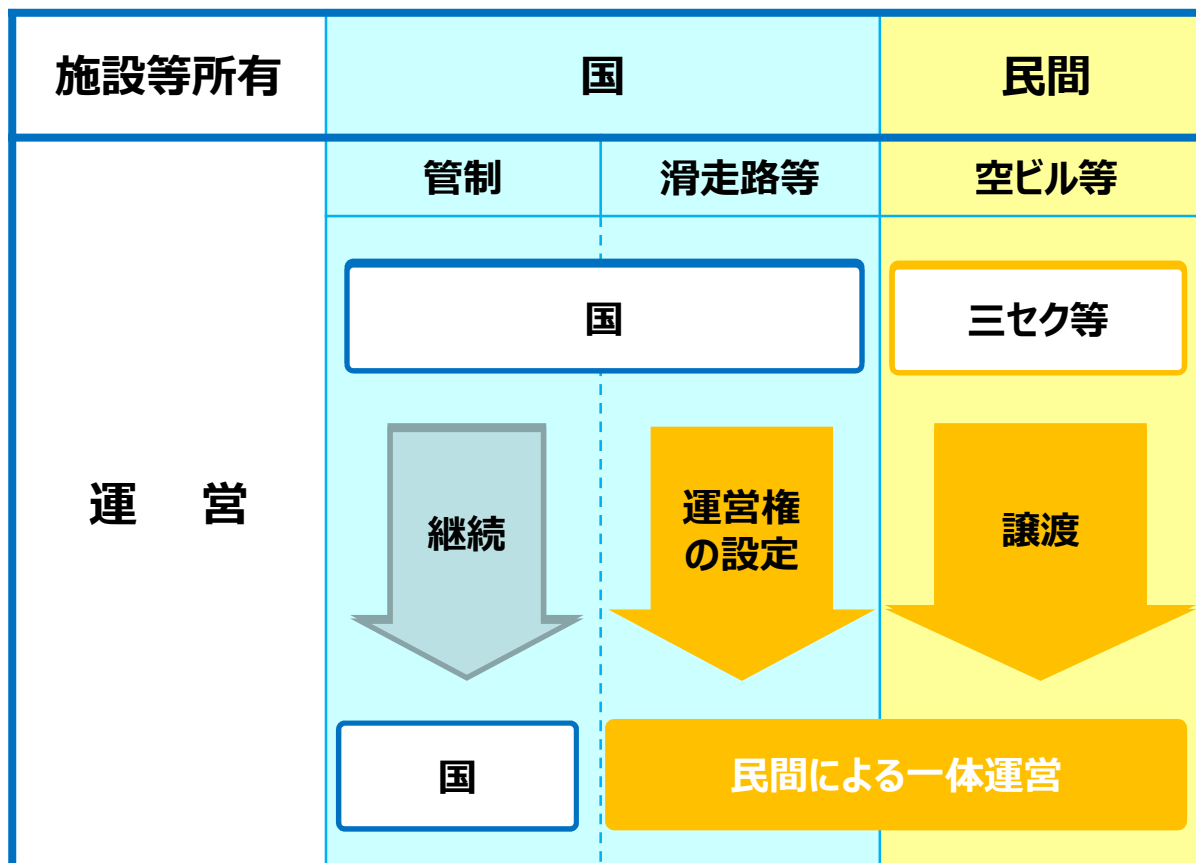
説明資料

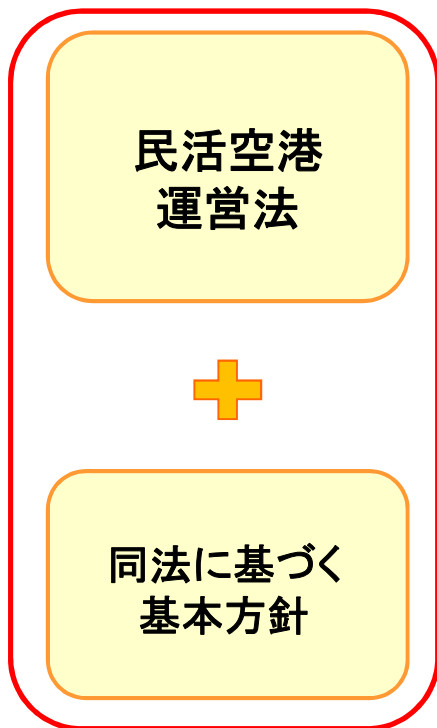
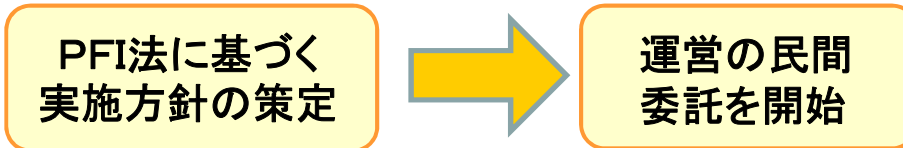
国土交通省 航空局
令和3年6月14日

民活空港運営法に基づき民間による一体経営を実現し、着陸料等の柔軟な設定等を通じた航空ネットワークの充実、内外の交流人口拡大等による地域活性化を図る。

民間委託
手法

国が土地等の所有権を留保しつつ、民間に運営権を設定し、航空系事業と非航空系事業を一体経営





仙台空港	H26.4	H28.7～
高松空港	H28.7	H30.4～
福岡空港	H29.3	H31.4～
北海道内7空港	H30.3	R2.1～ 7空港一体のビル経営開始 R2.6～ 新千歳空港 R2.10～ 旭川空港 R3.3～ 稚内・釧路・函館・帯広・女満別空港
熊本空港	H30.1	R2.4～
広島空港	H31.3	R3.7～

※ 上記のほか、関西・伊丹空港(H28.4)、但馬空港(H27.1)、神戸空港(H30.4)、鳥取空港(H30.7)、静岡空港(H31.4)、南紀白浜空港(H31.4)においても、運営の民間委託を開始

仙台空港の運営委託による取り組みと成果

- 仙台空港は、平成28年7月より仙台国際空港(株)による運営が開始。
- 仙台空港から宮城県外の東北地方各所への2次交通の充実、柔軟な着陸料設定や積極的なエアポートセールスによる路線の誘致等、民間の創意工夫を活かした運営が進められている。

施設整備による利便性の向上

(出典: 仙台国際空港(株))

○新旅客搭乗施設(ピア棟)建設・供用開始
(平成30年10月～)

- ・ローコスト構造・運用をコンセプトに設計
- ・国内線搭乗口: 6→10力所
- ・発着機輻輳時の旅客処理能力が拡大



民間委託を通じた路線拡充の動き

○民間委託後、**53便/週の増加** ※計画ベース
(H28夏ダイヤ 367便/週 → R2夏ダイヤ420便/週)

・**新規就航: 31便/週**
(国内線: 21便/週、国際線: 12便/週) ※2便減便有

・**増便: 22便/週**
(国内線: 14便/週、国際線: 8便/週)

旅客数の増加

○旅客数の実績値及び目標値

	平成27年度 (運営開始前)	令和元年度 (運営4年目)	30年後 (平成57年度)
旅客	311万人	372万人	550万人
国内	295万人	334万人	435万人
国際	16万人	38万人	115万人
貨物	0.7万t	0.7万t	2.5万t

空港アクセスの拡充

R2.4.1時点

鉄道

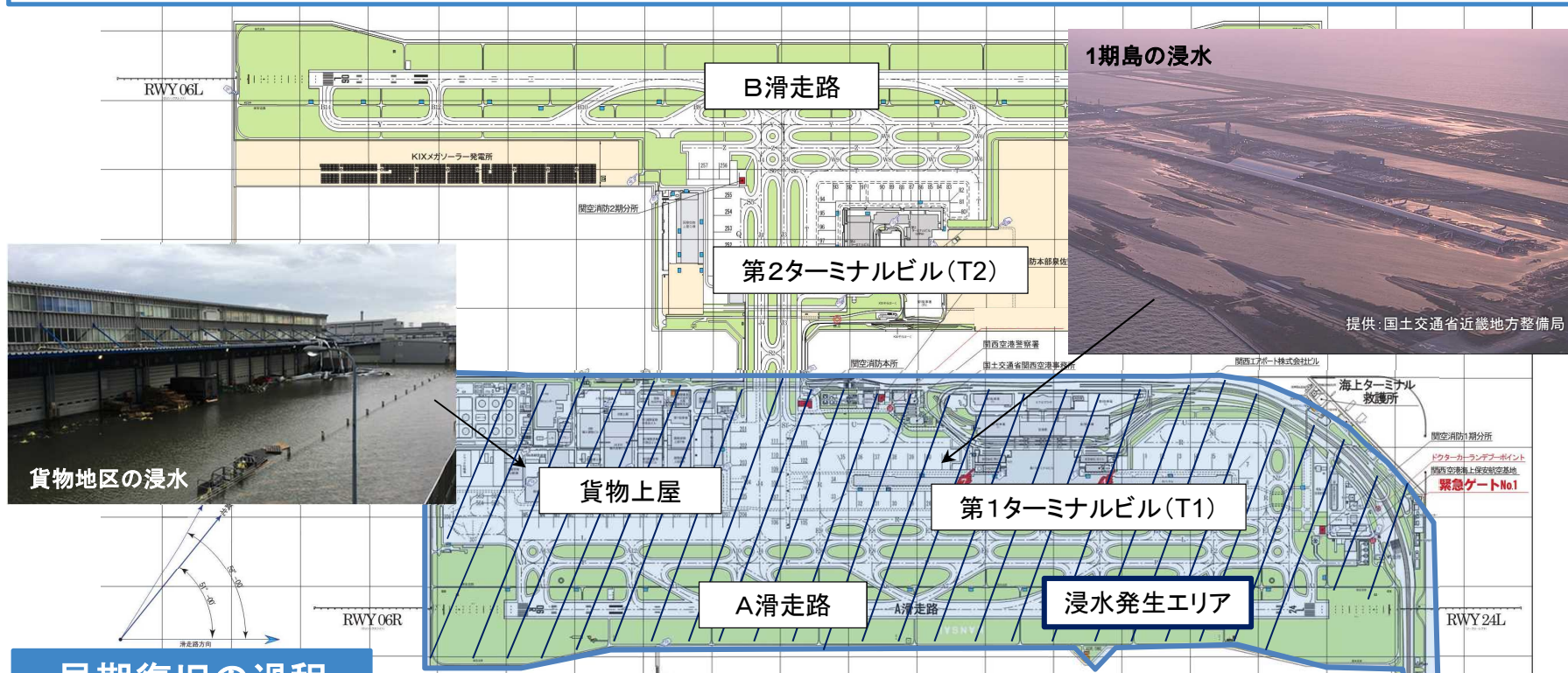
◇ 3往復増発 (仙台空港駅～仙台駅)

バス
定期運行

◇ 各地(福島、会津若松、山形等)との直行バス路線の開設
→ 5路線(1日計24往復の増加)

被災状況

○平成30年9月4日の台風21号では、高波により、広範囲にわたり大規模な浸水が発生し、空港機能が喪失するとともに、連絡橋にタンカー船が衝突し、通行不能になったことで、約8000人の滞留者が発生。



早期復旧の過程

①緊急再開
9月7日(発災後3日)
T2 国内線の再開

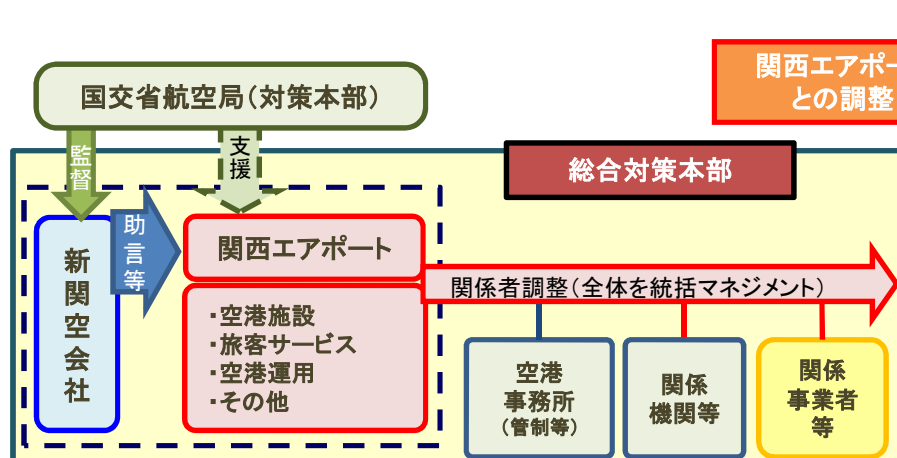
②部分再開
9月14日(発災後10日)
・T1 国内・国際線の部分再開
・T2 全面再開
・国際貨物地区の部分再開

③全面再開
9月21日(発災後17日)
・T1 全面再開

【危機管理時対応の見直し】

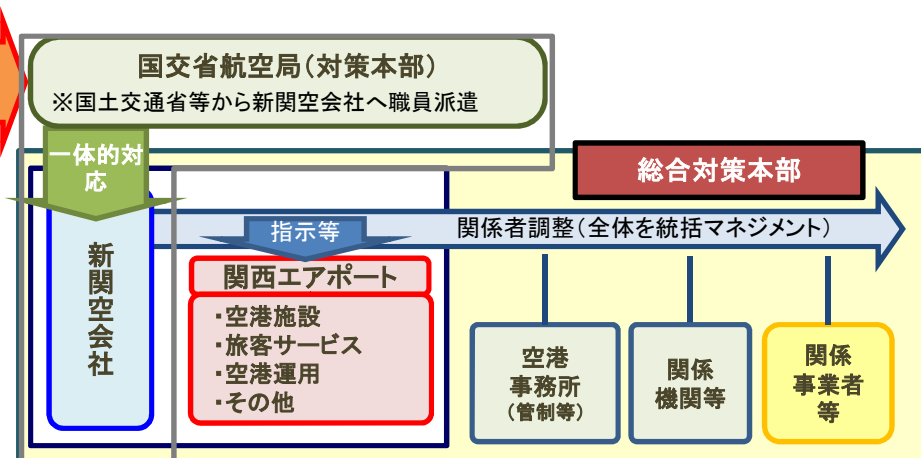
- 非常時の意思決定システムの改善を行うため、新たに、航空会社、アクセス事業者、自治体等を含めた**総合対策本部**の設置。
- 関西エアポート社(運営権者)と新関空会社(設置管理者)は、危機管理時、**連携・協働して緊急対応・早期復旧対策**を実施。
- 関西エアポート社による主体的かつ的確な事態の收拾が難しいと判断される場合には、関西エアポート社と調整の上、新関空会社は、国と一体的にかつ関係者と連携しつつ、**主体的に事態対処**。関西エアポート社は当該取組に対し実施面で協力。

【危機管理時(通常時)の対応】



※新関空会社は関西エアポート社内に設置される対策本部に参画し、関西エアポートの事態対処を支援

【事態が深刻化する場合等】



※新関空会社は関西エアポート社の協力を得つつ、必要な範囲で、主体的に事態対処

コンセッション空港における新型コロナウイルス感染症の影響

- 国内線：対令和元年1～4月と比べて約80%減少している空港もあるなど**航空需要が大幅に減少**。
- 国際線：対令和元年1～4月と比べての旅客数の**減少率がほぼ100%**と甚大な影響を受けている。
- 空港会社の収支状況：コロナ禍による旅客需要の大幅な縮小により、各空港会社は**大変厳しい経営環境**におかれている。

空港毎の旅客数減少率

	新千歳	仙台	高松	福岡	熊本
国内線	▲68.4%	▲61.4%	▲78.4%	▲62.5%	▲73.6%
国際線	▲99.9%	▲100%	▲99.9%	▲99.7%	▲100%

※令和3年1～4月の旅客数の対令和元年同期比

空港毎の収支状況

(億円)

	北海道	仙台	高松	福岡	熊本
	令和2年度 中間決算	令和2年度 中間決算	令和2年度 中間決算	令和2年度 中間決算	令和2年度 中間決算
売上高	144 (-)	11 (57)	3 (15)	66 (412)	9 (-)
当期利益	▲98	▲8	▲7	▲118	▲8

※カッコ内は、令和元年度の決算より引用
(北海道、熊本は令和2年度より空港運営事業開始)

出典：各社HP

会社名	施策名	対象等
北海道エアポート(株) 仙台国際空港(株) 高松空港(株) 福岡国際空港(株) 熊本国際空港(株)	空港施設の整備に対する無利子貸付	金額：31億円(R3)
	運営権対価分割金の支払いの年度越え猶予	対象：北海道、福岡
	空港運営事業期間の延長	対象：5社全社
	契約上の履行義務の緩和 (施設整備の後ろ倒し等)	対象：5社全社

※コロナ時代の航空・空港の経営基盤強化に向けた支援施策パッケージ(R2.12)より